

日本ビジネス実務学会

第 25 号中国・四国ブロック会報

第 25 号

2012 年 1 月 1 日

2011 年度の中国・四国ブロック活動をふりかえり

中国・四国ブロックリーダー
篠原 収

新年明けましておめでとうございます。会員の皆さまのご健康とますますのご活躍を、心よりお祈り申し上げます。

さて、第 30 回全国大会で理事、評議員の改選があり、池内新会長の下、新役員体制が決まりました。中国・四国ブロックからは、3 名の理事(篠原・桐木会員・松永会員)と 3 名の評議員(中村会員・佃会員・石井会員)が選任されました。また、ブロック研究会総会において、次期運営委員(篠原・桐木会員・曾根会員・神戸会員・田中会員・栗屋会員・宇根会員)の方々を承認していただきました。リーダーは篠原、サブリーダーは桐木会員、事務局は宇根会員の担当となります。皆さま、よろしくお願いいたします。

また、第 30 回全国大会で、次回全国大会は、中国・四国ブロック担当で、広島女学院大学を会場に 2012 年 6 月 9 日(土)・10(日)の日程で開催することとなりました。ブロック研究会総会において、第 31 回全国大会実行委員会(上記役員の他には、山野会員、渡辺和枝会員、渡辺裕一会員、関会員、立花会員、堀口会員、吉田会員、石田会員、河野会員)の発足が認められ、ブロック研究会終了後に第 1 回の実行委員会が持たれ、事前の役割分担と工程表を確認しました。

第 28 回ブロック研究会は、2011 年 8 月 27 日(土)・28 日(日)の 2 日間にわたり、広島女学院大学において、25 名の会員等と学生プレゼンテーションの発表者 5 名を加えた 30 名の参加を得て開催されました。定例総会、第 6 回学生プレゼンテーション大会、研究発表(8 件)という内容で実施されました。また、恒例の懇親会は、市内中心部の AGRI(アグリ)に会場を移して開催され、和やかな雰囲気の中での活発な議論が続き、有意義なひと時を過ごしました。ご多用にもかかわらず、数多くの会員のご参加ならびに貴重な発表をいただきましたこと、運営等にご尽力くださいました会員の方々に深く感謝申し上げます。

研究発表会では、活発な質疑応答が行われ、研鑽を積むに相応しい場となりました。大学・短期大学において、教育の質保証が求められている時代です。教育現場で直面する課題に向き合い、総合的な教育力を発揮するためにも、研究や授業開発・実践の成果を研究会で発表していただくことが肝要となってきました。

また、6 回目を迎えた学生プレゼンテーション大会は、5 名の学生の参加申し込みがありました。熱心なご指導もあり、年々プレゼンテーションの内容・方法ともに質が高くなってきており、すばらしい発表でした。この大会には、約 20 名の学生が応援に駆けつけていました。

次期研究会を徳島市で開催することが承認され、第 29 回ブロック研究会は、2012 年 9 月 1 日(土)・2 日(日)に徳島文理大学短期大学部で開催されることとなりました。数多くの研究発表、共同研究助成発表とともに、多数のご参加を心よりお願い申し上げます。

第6回 学生プレゼンテーション大会



発表の皆さんとご指導の先生方



「私の大学生生活—大学祭と高松祭りを通して得たもの—」

高松短期大学 秘書科 2 年

岡田 奈都子さん

「一歩踏み出すことの大切さ」

広島女学院大学 生活科学部

生活デザイン・情報学科 3 年

石坪 真紀さん



「一歩前へ」

広島女学院大学 生活科学部

生活デザイン・情報学科 3 年

水本 真子さん

「大塚製薬のリポジショニング戦略について」

川崎医療福祉大学医療福祉マネジメント学部

医療福祉経営学科 3 年

柏原 涼太さん



「ブランド拡張とは」

川崎医療福祉大学医療福祉マネジメント学部

医療福祉経営学科 3 年

山下 実緒さん

研究会風景



日本ビジネス実務学会 第28回 中国・四国ブロック研究会 プログラム

(2011年8月27日・28日 於:広島女学院大学)

【8月27日(土)】	
12:30～	受 付
13:00～	開会の挨拶 当番校挨拶・事務連絡 ブロックリーダー 山野 邦子 篠原 收
13:10～	総 会
第6回学生プレゼンテーション大会 (発表:5分)	
14:00～	① 私の大学生活ー大学祭と高松祭りを通して得たものー 高松短期大学 秘書科2年 岡田 奈都子 ② 一歩踏み出すことの大切さ 広島女学院大学 生活科学部生活デザイン・情報学科3年 石坪 真紀 ③ 一歩前へ 広島女学院大学 生活科学部生活デザイン・情報学科3年 水本 真子 ④ 大塚製薬のリポジショニング戦略について 川崎医療福祉大学 医療福祉マネジメント学部医療福祉経営学科3年 柏原 涼太 ⑤ ブランド拡張とは 川崎医療福祉大学 医療福祉マネジメント学部医療福祉経営学科3年 山下 実緒
15:00～	学生プレゼンテーション大会の表彰
15:10～	休 憩 (20分)
研 究 発 表 (発表20分・質疑応答10分)	
15:30～	① パワーポイントを利用した、誰でもできる英語教材開発 ー高価なLL(GALL)教室がない場合の打開策を公開ー 徳島文理大学短期大学部 堀 口 誠 信
16:00～	② 「ビジネスデザイン」ー授業開発とその効果ー 広島女学院大学 石 井 三 恵
16:30～	③ キャリア教育とブレンディッドラーニング 山陽学園大学 川 端 淑 子
17:00～	事務連絡 篠原 收
17:30～	タクシーで移動
18:00～	懇 親 会 (於:AGRI アグリ)

【8月28日(日)】	
* 8:30～8:50 主日礼拝(於:ケーンズチャペル)	
9:10～	受 付
研 究 発 表 (発表20分・質疑応答10分)	
9:30～	④ グローバル採用に関する一考察 広島女学院大学 篠原 收
10:00～	⑤ 情報公開と秘密の保護についての一考察(その3) ー人間学的経済学の考え方を基にー 関西学院大学 曾 根 康 仁
10:30～	休 憩 (15分)
10:45～	⑥ チーム効力感を育成する学習者中心学習の試み 川崎医療福祉大学 渡 辺 裕 一
11:15～	⑦ 医療秘書における感情労働の本質探究に関する一試論 川崎医療福祉大学大学院 医療福祉マネジメント研究科修士課程2年 佐 藤 麻 衣
11:45～	⑧ ビジネス実務教育における高大連携のあり方(その3) 高松短期大学 佃 昌 道・山野 邦子・関 由 佳 利 高塚 順子・水口 文 吾
12:20～	閉会の挨拶 次 期 当 番 校:徳島文理大学短期大学部

パワーポイントを利用した、
誰でもできる英語教材開発
-高価な LL(CALL)教室がない場合の打開策を公開-

徳島文理大学短期大学部 堀 口 誠 信



英語の授業において「ただ英文を読んで訳すだけ」という単調なスタイルから脱し、TOEIC の出題にあるような「ビジネスの現場で実際遭遇する英文 E メール」のやり取り、同僚との英会話、さらには英語のアナウンスやメッセージの理解を増強する状態にまで達するためには、とりわけ

英語の音声面でのトレーニングが欠かせない。このような練習には、従来から英語の CD を繰り返し聴いたり、シャドーイングしたりする方式が、個人的にはとられていたわけであるが、40 人 1 クラスなどを一括して行うには限界がある。

その原因は、学習効果の評価に必要なスピーキングの成果を、学生が録音した音声ファイルで提出する場合 (40 人分など一括で)、高価な CALL システム (すなわち Computer-Assisted Language Learning または LL 教室すなわち Language Laboratory) が必要だったという点と、英語の習熟度のばらつきが近年特に激しくなっており、大学レベルや高等学校レベルでは、コーラスリーディング (全員で同じ速度で英文を音読する) などが難しくなっている、という点の主に 2 つが挙げられる。

前者については、英検の 2 次面接試験 (口頭試験) のように、教員が学生を 1 人 1 人テストすれば良いのだが、40 人であれば、40 倍の時間がかかってしまう。この解決法として、紙媒体の回収 (ペーパーテスト) のように一気に回収する方法が CALL 教室における音声一斉配信 (教員や CD の英語発音を 40 人の学生に同時配信) と個別ファイル一斉回収 (40 人の学生の別々の録音済みファイルを同時回収) のシステムである。私の勤める大学の語学センターにはこのシステムとして同時通訳訓練法のための専用ソフトが組み込まれており、この作業をスムーズに進行できるが、英語教員免許更新講座を地元高等学校・中学校の先生たちに開催するにあたり「高価な CALL 教室や LL 教室を装備している公立学校は少ないのでその対処法を」という要望が多く、普通のパソコン室と一般的なパソコンソフトで実現可能な CALL システムの構築を考えるに至った。

また、後者については、教室内で一応の読み方や文法、意味などについて指示を出した後は、各学生の習熟度にあわせた進度で「個別に」練習させた後に自分で発音・録音したファイルを提出させるやり方がベストであることがわかっている。それは、習熟度のばらつきに加え、各学生によって聴き取れない箇所、発音しにくい箇所のばらつきも大きいことに由来する。

本発表では、これらの点を踏まえ、一般的ソフトの代表である「パワーポイント」を使用することによって音声配信・音声録音を 40 人などの教室で可能にする簡単なやり方とそれらを応用した具体的な授業方法を紹介する。また、これは TOEIC などの他、英語の歌、英語プレゼン、英文読解にも応用できることを示したい。

ビジネスデザイン —授業開発とその効果

広島女学院大学 石 井 三 恵



「ビジネス現場で働く一人ひとりの人間のビジネス実務能力を開発し、付加価値を高める創造的なビジネス実務を実践することが課題となっている」と、日本ビジネス実務学会は研究の方向性を示している。経営学とは異なり、「働く人間の側」からビジネス活動をとらえる視点がビジネス実務の基盤であ

り、ある種の醍醐味でもある。しかしながら、一刻一刻と変化する現代社会という文脈から、その方向性を再認識する必要がある。

その理由として三つの背景が挙げられる。第一は、1970 年代に女性学研究者が指摘した少子高齢社会への対策は、40 年が経過した現在も打開策がみつからず、世界が注目するほどの超高齢社会へと突き進んでいることである。第二は、情報通信技術の進展が革新的な産業を生み出す一方で、経済のグローバル化を否定できない状況となり、従来の産業を空洞化させ、雇用形態の多様化から社会構造の多様性を容認せざるを得ないことである。第三は、この状況下において、社会を創造すべき社会人を輩出する高等教育機関における教育が、進学率の上昇にともない、社会のニーズと現代という時代に対応しきれていないことである。

本研究では、第三の背景に着目し、高等教育機関でビジネス実務能力を養成するための新たな講義・演習科目「ビジネスデザイン」の開発を実施した。off-campus においても、教員が学生と共に学ぶ環境を設定し、共に社会のニーズに応えるという体験をするものである。ビジネス実務に関する先行研究として、汎用能力の開発研究、就業能力の開発研究などがあり、アウトプットとしてのインターンシップ研究も展開された。しかしながら、高等教育機関へ入学する前まで受動的学習傾向の強い学生が能動的学習傾向へ自ら移行することは容易ではなく、依然として学習の意義や意味を理解させるための初年次教育の必要性が叫ばれているのが現状である。これまで、高等教育機関において異なる学問領域間で協働することなど皆無に等しかったが、学生の現状を改善するためには、異なる領域間での相互作用を前提とした教員同士の協働が求められている。さらには、教員の能力開発の必要性や質の向上のための FID 活動が推進されている。つまり、学生のみならず、教員にも能力開発の必要性があるということになる。元来、狭い研究領域にしか自己を存在させなかった教員にとって、自らの能力を開発する姿が、学生にとってのロールモデル、あるいはメンターとなることを自覚するよい機会となる。一方、社会経験を得た教員は自らの専門性を高めると同時に、これまでの経験を論文化する必要性からも、FID 活動への参加は必至であろう。高等教育機関という現場で働き、自らの生活を切り開いていく人材となる努力を重ねることが、社会の人材養成に応えることにつながるからである。さらなる展開を求めて、研究は継続していく予定である。

キャリア教育とブレンディッドラーニング

山陽学園大学 川 端 淑 子



近年、文科省の指導もあり、大学において「キャリア教育」が重要視されるようになった。しかし、学際的課題で多岐にわたる「キャリア教育」を、高等教育機関で統一した見解のもと、どの科目が該当し、どのレベルのまで教育すればよいのか。学生が「キャリア教育」を自分自身のキャリア開発のためと自覚して学ぶには、どのような環境を整えればよいのか。山陽学園の「キャリアセンター運営委員」、「キャリアアップ部会長」として研究することが急務であるという認識の下、平成 22 年度山陽学園大学紀要に「キャリア教育における ICT 教育についての考察」を発表した。この論文をベースに、キャリアセンターで今年度も継続して取り組んでいる「キャリア教育」についてまとめる。東京女学館大学の「10の底力」をベースにし、全学的に全ての授業に取り入れるキャリア教育を提案し、検討中である。そして、自分自身の担当授業での取組から、「ブレンディッドラーニング」はキャリア教育の1手段であることを発表する。

山陽学園大学・短大のキャリアサポートラボに PC や DS、iPod などとソフトを設置し、学生が自習する環境を提供していて、利用促進を図らなければならない。利用者が少ない原因の1つとして推測できることは「e-ラーニング」に慣れていない学生が大多数であるということである。学習意欲を持つための何か目標が必要であり、「キャリアポイント」という制度を作った。賞についても現在議論されている。

友達と教室で過ごすことが大きなウェイトを占めていたり、教えてもらうという授業形態に慣れた学生は、どちらかというと教室での集合授業をはば全員選択するであろう。しかし、一方通行の講義では、スキルは定着しないであろうし、個人個人で能力も意欲も違う。それを解決するために、能力別クラスが試みられたが、全ての授業で導入は無理であるし、同じ授業で能力別クラス授業であると成績の付け方にも問題が起こる。

友達と教室で過ごすことが大きなウェイトを占めていたり、教えてもらうという授業形態に慣れた学生は、どちらかというと教室での集合授業をはば全員選択するであろう。しかし、一方通行の講義では、スキルは定着しないであろうし、個人個人で能力も意欲も違う。それを解決するために、能力別クラスが試みられたが、全ての授業で導入は無理であるし、同じ授業で能力別クラス授業であると成績の付け方にも問題が起こる。

「インターネットやメディア機器を利用し、主として個人が自分のペースで学ぶ」e-ラーニングと「講師主導で全員が同じペースで学ぶ」集合授業を組み合わせた教育を「ブレンディッドラーニング (blended learning)」にとらえ、それぞれの長所を取り入れ、担当授業で効果的なキャリア教育を行うことを試みてきた。

成績を可視化し、誰でも 100 点が取れるようにして達成感を持たせたいという意図もあり、平成 23 年度前期ある程度よい結果が得られたので、ブレンディッドラーニングについてキャリア教育で推進を図りたい。

グローバル採用に関する一考察

広島女学院大学 篠原 収



グローバル採用とは、グローバル感覚と語学力を有する学生を優先的に採用するものである。新規卒業生を対象とした採用において、対象となる日本人学生が希少化する中で、国籍を問わず人材採用することを近年実施し始めている企業が増えている。外国人学生を従来の「現地採用」ではなく現地からの「本社採用」、日本への外国人留学生の「本社採用」、日本人海外留学生の「本社採用」を積極的に取り組むことである。

グローバル人材採用進展の背景は、日系グローバル企業のグローバル化進展によるものである。少子化等により日本市場の拡大が頭打ちであるのに対して、生産・販売の海外比率が増大している現状への対応でもある。東日本大災害に伴う計画停電への対応として、海外生産を新規に計画している企業も多数ある。こうしたグローバル採用に対応するには、グローバル感覚を身に付ける学生の育成が求められることになる。したがって、グローバル感覚を身に付けることができる国際教養科目群を、教室内外で学べる環境を整える必要がある。一方で、求められる語学力(英語・中国語等)については、海外要員の英語力は「TOEIC 730 点以上」とする企業も多くある。語学力獲得をめざすモチベーションを高める工夫も必要である。

各大学での取り組みについては、「グローバル 4」の取り組みが参考になる。「グローバル 4」とは、国際基督教大学(ICU・東京)、国際教養大学(秋田国際)、立命館アジア太平洋大学(大分)、早稲田大学国際教養学部(東京)のことである。その他の大学の事例としては、津田塾女子大学、白百合女子大学、立命館大学国際学部、明治大学国際日本学部、恵泉学園女子大学国際社会学科、立教大学経営学部などが挙げられる。共通項としては、初年次英語教育の徹底、英語で学ぶリベラルアーツ、複合領域を学ぶ専門科目の幅広さ、異文化理解体験のために留学生に囲まれる環境を提供し、海外でのフィールドワークを提供していることなどである。

広島女学院大学での取り組みとしては、広島女学院大学における現状のカリキュラムとしては、海外ビジネス研修がある。また、2012 年度における広島女学院大学の改組により、国際教養学部には次のようなメジャー(専攻領域)があり、Global Studies in English (GSE)メジャー、アジア・アフリカメジャー、米文化メジャー、ビジネスデザインメジャー、平和学メジャー等が用意されている。広島女学院大学 GSE メジャーは、教養科目・専門科目を英語で学ぶメジャーであり、GSE 入試エントリー資格は、実用英語検定 2 級取得者、TOEIC500 点以上獲得者である。さらには、Dual Degree Program (DDP)も用意している。

情報公開と秘密の保護についての一考察 (その3)

—人間学的経済学の考え方を基に—

関西学院大学 曾根 康 仁



本発表は、前々回(第26回)・前回(第27回)の中国・四国ブロック研究会での発表に引き続き、さらに研究を進めたものである。

1. 人間学的経済学の定義
発表者は、人間学的経済学を次のように定義するものとする。すなわち、「人間学的

経済学は、『One for All, All for One.』を基にした思いやりの社会を実現するために、個人の自由な行動を促進しながらも、共有の空間である社会のためになる触媒としての処方进行研究することを目的とした経済学をいう。」

2. 「One for All, All for One.」の考え方を基にしたフレームワークの概念図と分析

「One for All, All for One.」は、「共存」・「共生」のためのキーワードであると考えている。この考え方のフレームワークを情報公開と秘密の保護を基にその概念図(本要旨では省略。)で示した。この概念図において、情報公開する場合と秘密の保護をする場合について分類を行った。詳述すれば、「One for All, All for One.」を実践することが重要であり、その実践において、「内部に弱い立場の方がいない場合」【1】と「内部に弱い立場の方がいる場合」に分類した。さらに「内部に弱い立場の方がいる場合」を、「周りに迷惑をかけることがない」【2】と「周りに迷惑をかける恐れがある」【3】に分類した。なお、【3】の場合は、「弱い立場の方に補償を行う」を別途しなければならない。

一方、社会の出来事をこのフレームワークで分析すれば、もしこのフレームワークに合致しない場合、種々の問題が起きるように推察する。すなわち、【1】では不正表示が起こる。【2】では学生と教員との信頼関係が希薄になる。【3】ではインフルエンザの流行拡大になる。さらに【3】では食品への放射性物質による風評被害が起こる。

3. 処方としてのFS技術

発表者開発のFS技術は、より早く協調的な行動を多くの方がすればするほど、それらの方の利便性がより高まるというビジネスモデルである。

4. FS技術による処方の検証

先述のフレームワークにおいて、【1】～【3】の分類に沿って行うことが重要であるが、最も重要なことは「One for All, All for One.」の考え方を人々が実践できなければならない。もしこれが実践できなければ、特に想定外の状況すなわち非定型業務的な状況における情報公開の場合、消極的な対応に終わることが危惧されるのである。

したがって、積極的に「共存」・「共生」するための協調的な行動へ促進するために、その触媒の一つとしてFS技術が役立つものと考えているのである。

チーム効力感を育成する学習者中心の教育の試み

川崎医療福祉大学 渡辺 裕一



実務能力の基盤としての「チーム効力感」(Bandura,1997)を学習者中心の学習法であるPBLによって育成する試みを報告する。「チーム効力感」とは自己効力感をチームに拡大した概念で、「チームとして目の前の課題や目標を達成するために必要な行動をすることができるという自信」のことである。

本PBLの基本的な立脚点は学習者間の参加、体験、相互作用を促進することにある。プロジェクトのゴールはゼミ生が教員役となって他の学生に授業を行うことである。そのために次の活動を行った。

- 1 「理想の授業」のイメージづくり

ゼミ生によるブレイン・ストーミングで「理想の授業」のイメージを描き、共有した。BSで出された意見は60項目であった。それをKJ法で分類したところ「理想の授業」とは参加型の授業であること、事例が多く具体例が多いこと、親しみやすい工夫がなされていること、授業のポイントが明確であること、教材・スライドが見やすい、声が聞きやすいこと、など6つのパターンに分類された。

- 2 教授法の研究、授業構成立案と教材開発

学生は多数の人に情報を伝達する訓練としてプレゼンテーションの基本を学んでいるが、教授法については学習をしていない。そこで彼らが体験してきたプレゼンテーションと授業の違いを議論し、発声法の違い教材提示のしかたなどを検討した。この議論を基に授業構成立案と教材開発をおこなった。

- 3 プロジェクト活動、リハーサル

授業は2チームがそれぞれ1回ずつ、2回にわたり行う。5名と4名の編成であった。内容はマーケティング活動に関する事例を中心に取り上げたものである。プロジェクト活動の大半はチーム単位で行った。授業として耐えうる品質に至るまでリハーサルを繰り返すという条件のもと、上級生によるクリティークを経ながら、6週間のプロジェクト活動をおこなった。リハーサルは5回行い、授業に臨んだ。

- 4 活動のふりかえり

本PBLの成果は、①小さな成功体験を積み重ねることにより、大きな課題を達成できることが体得できた。②「身の丈を越えた体験」をすることで、チームとして困難な課題にチャレンジする風土を育むことができた。

以上

医療秘書における感情労働の本質探求 に関する一試論

川崎医療福祉大学大学院 医療福祉マネジメント研究科
医療秘書学専攻 修士課程2年 佐藤麻衣



アメリカの社会学者であるホックシールド(A. R. Hochschild)は、その著 *The Managed Heart* (1983) (石川准・室伏重希共訳『管理される心』, 2000年)のなかで「感情労働」概念を提唱した。本研究では、この概念を医療秘書へ援用し、「医療秘書における感情労働の本質」について探究するものである。

筆者は修士課程に入学後、感情労働概念に出会い、感情労働の先行研究を進めてきた。文献を渉猟し、各研究の観点に着目した結果、9つの専門領域(社会学、看護学、経営学、経済学、心理学、福祉学、理学療法学、秘書学、教育学)からのアプローチが見えてきた。そこで、各専門領域の感情労働研究からエッセンスを抜き出し、感情労働の「本質」を究めるべく根本的要因を導いた。

その要因とは、まず、「感情」と「労働」である。ホックシールドはこの二つの個別の用語を造語化し、感情労働概念を提示した。それゆえ、「感情」と「労働」という要因が結びついて新たな意味を持つこととなった。次に、感情労働は、人と人との関わりのなかに存在することから、「人間関係」が要因となる。この「人間関係」とは、つまり「対人関係:対面関係(face-to-face relation)」によるものである。また、「対人関係(対面関係)」における感情労働では、「自分の感情」と「相手の感情」がやりとりされる。そして、自分の感情のなかには、「自分の内にある自己の感情」も存在する。このように、自分と相手の感情が相互作用するとき、「主体と客体」という関係性が存在し、そこに相互作用関係による「相手への感情変化」が生じる。また、感情労働が組織のなかに持ち込まれるとき、「個人と組織」という関係性が生まれる。そしてそれは、「組織の要因によってコントロールされる個人の感情労働」を導くのである。したがって、そこには「個人と組織のコンフリクト」が存在する。以上のことから、感情労働には、「感情」「労働」「人間関係」「対人関係(対面関係)」「自分の感情」「相手の感情」「自分の内にある自己の感情」「主体と客体」「相手への感情変化」「個人と組織」「組織の要因によってコントロールされる個人の感情労働」の11要因が介在しているといえる。

本研究の課題は、「医療秘書の感情労働」について明らかにすることである。その手がかりとして、まずは、9つの専門領域から感情労働の根本的要因を導いたが、このことは感情労働の「本質」ではないかと推論する。そして、次なる課題は、ここで導いた感情労働の根本的11要因を医療秘書へ援用し、感情労働研究を深化させることにある。しかし、この課題を達成するためには、秘書研究および医療秘書そのものの事象についての探求が求められる。

したがって、本発表では、まずは秘書学と医療秘書学の先行研究を通じ医療秘書への探求を第一に手がける。そして、第二に、感情労働の根本的要因と医療秘書とを照合させ、医療秘書における感情労働に関する試論を報告するものである。

ビジネス実務教育における高大連携のあり方 (その3)

高松短期大学 佃昌道・山野邦子・
関由佳利・高塚順子・水口文吾



今回は、過去2回にわたる、「ビジネス実務教育における高大連携のあり方について」の検討を踏まえ、ビジネス実務教育における、カリキュラム体系や学習のありかたについて考察をおこなう。

はじめに、私たちは、過去2回のわたり、「ビジネス実務教育における高大連携のあり方について」、検討をおこなってきた。高大連携については、1999年に「初等教育と高等教育の接続について」中教審に答申されて以降、

1. 「出前講義」「出前授業」
2. 高校生を科目等履修生、聴講生として受入れ学修成果を高校や大学の単位として認定するもの、
3. オープンキャンパスや公開授業、特別講義などへの高校生の参加などの形で実施されてきた。

高等学校学習指導要領の一部変更がおこなわれ、商業科の指導要領の科目に「ビジネス実務」が設定された。目標は「ビジネス実務に関する知識と技術を習得させ、ビジネスにおけるコミュニケーションの意義や業務の合理化の重要性について理解させるとともに、ビジネスの諸活動を円滑に行う能力と態度を育てる。」であり、本学会のビジネス実務能力育成のための教育内容との関係が大きいことが顕著となった。

香川県の商業科の現状は、在籍状況では県内高校在籍数における商業科の割合は7.4%で全国平均の6.7%を上回っており、また、商業科の大学等進学率は3割後半で全国平均の2割台を大きく上回っているという実態から、商業教育における高等学校と高等教育機関との学習内容の円滑な連携・接続が必要であると考えた。

今回は、ビジネス実務教育における、学習指導要領の内容や高等学校の状況を把握した、体系的な学習計画と学習評価を含めたカリキュラム体系や学習のありかたについて考察をおこなう。ビジネス実務教育のカリキュラムについては、一般財団法人全国大学実務協会において、ビジネス実務関係教育課程ガイドラインにより、ビジネス実務総論、ビジネス実務演習、及び、関連分野として、ビジネス実務、ビジネスマネジメント、ビジネスと情報、ビジネスと現代社会の内容が定められている。また、本年3月に報告された、「短期大学における今後の役割・機能に関する調査研究成果報告書」の「ビジネス実務の専門能力の育成とモデル・コアカリキュラム」において、1. 業務遂行能力、2. チームで働く力、3. 顧客対応力、4. ビジネスマインド、5. ビジネス・ファンダメンタルズの5つの基本能力をもとにしたコアカリキュラムが示された。

今回は、商業科における新学習指導要領の内容に加え、先行研究や本学秘書科のカリキュラム、前述の報告書の内容やガイドラインを考慮した本学におけるビジネス実務教育の骨子を示すことができた。

今後は、この骨子をもとに、専門高校や専門学科の教員と連携をとりながら、大学教育への円滑な接続がおこなえる方法について検討をおこないたい。

第 28 回 中国・四国ブロック研究会総会概要

2011 年 8 月 27 日（土）広島女学院大学にて

第 1 議題 2010 年度事業報告

◆ 中国・四国ブロック研究会運営委員会

第 1 回 開催日: 2010 年 5 月 30 日(日)

開催場所: 自由が丘産能短期大学

第 2 回 開催日: 2010 年 8 月 28 日(土)

開催場所: 高松短期大学

第 3 回 開催日: 2010 年 8 月 29 日(日)

開催場所: 高松短期大学

◆ 中国・四国ブロック研究会総会

開催日: 2010 年 8 月 28 日(土)

開催場所: 高松短期大学

◆ 第 27 回 中国・四国ブロック研究会

開催日: 2010 年 8 月 28 日(土)・29 日(日)

開催場所: 高松短期大学

参加者: 28 名

発表者: 9 件

◆ 第 5 回 中国・四国ブロック 学生プレゼンテーション大会

開催日: 2010 年 8 月 28 日(土)

開催場所: 高松短期大学

発表者: 5 件

◆ 第 24 号 中国・四国ブロック会報の発行

発行日: 2011 年 3 月 31 日

発行部数: 150 部

第 2 議題 2010 年度会計報告

◆ 収支計算書の説明ならびに監査報告

2010 年 5 月 1 日から 2011 年 4 月 30 日

第 3 議題 2011 年度事業計画

◆ 中国・四国ブロック研究会運営委員会

第 1 回 開催日: 2011 年 6 月 4 日(土)

開催場所: 大手前大学

第 2 回 開催日: 2011 年 8 月 27 日(土)

開催場所: 広島女学院大学

第 3 回 開催日: 2011 年 8 月 28 日(日)

開催場所: 広島女学院大学

※「第 31 回全国大会」第 1 回実行委員会を兼ね拡大運営委員会とする

全国大会実行委員: 篠原 収、桐木 陽子、神戸康弘、田中 伸代、栗屋 仁美、曾根 康仁、宇根治、松永 満佐子、佃 昌道、石井 三恵、山野 邦子、渡辺 裕一、立花 知香、堀口 誠信、吉田 順子、石田 裕子、河野 彩、関 由佳利、渡辺 和枝

◆ 中国・四国ブロック研究会総会

開催日: 2011 年 8 月 27 日(土)

開催場所: 広島女学院大学

◆ 第 28 回 中国・四国ブロック研究会

開催日: 2011 年 8 月 27 日(土)・28 日(日)

開催場所: 広島女学院大学

◆ 第 6 回 中国・四国ブロック 学生プレゼンテーション大会

開催日: 2011 年 8 月 27 日(土)

開催場所: 広島女学院大学

◆ 第 25 号 中国・四国ブロック会報の発行

発行日: 2012 年 1 月 1 日(祝)

発行部数: 150 部

◆ 2011 年度 共同研究助成の募集について

第 4 議題 2011 年度予算について

第 5 議題 次期開催校について(2012 年度)

第 6 議題 2011・2012 年度ブロック運営委員の選出について

第 7 議題 理事会報告

◆ 第 31 回全国大会について

◆ その他

会 員 各 位

日本ビジネス実務学会

中国・四国ブロック研究会

共同研究助成募集

助成の対象となる共同研究を、以下の要項に則り募集いたします。

募 集 要 項

1. 助 成 目 的: ビジネス実務に関連があり、今後の発展が期待できる研究を育成する。
2. 助 成 額: 1 件 5 万円
3. 応 募 資 格: 2 名以上で行う共同研究であり代表者が日本ビジネス実務学会中国・四国ブロック研究会の会員であること。また、他から補助を受けていない研究であること。
4. 申 請 用 紙: 応募者は、所定の申請用紙を郵便または電子メールで、ブロック研究会事務局に請求すること。郵便の場合は、80 円切手を貼った定型の返信用封筒を同封のこと。
5. 申 請 期 限: 10 月末日必着。
6. 申 請 方 法: 申請書をブロック研究会事務局宛に郵送すること。
7. 審 査 方 法: ブロック運営委員会で協議の上採否を決定し、結果を 11 月末日までに申請代表者に通知する。
8. 助 成 金 交 付: 11 月末日までに助成金を交付する。助成金の決算報告書は、共同研究終了後、速やかにブロック研究会事務局に提出すること。
9. 研 究 成 果: 助成を受けた者は、次年度のブロック研究会において研究成果を発表すること。

以上

徳島文理大学ならびに徳島文理大学短期大学部の紹介

徳島文理大学短期大学部 堀口 誠信

【徳島文理大学の建学精神は「自立協同」です】

徳島文理大学は 1895 年、学祖・村崎サイによって私立裁縫専修学校として設立。彼女は「女も独り立ちが出来ねばならぬ」との信念を持っていましたが、戦後の学園復興を通じ、総合学園に成長する過程で前理事長の村崎凡人が「自立協同」の建学精神を掲げ、現在に至っています。

【良き市民、良き家庭人】

現在、9 学部 26 学科の文系・理系・医療系を軸とする総合大学となりましたが、学園創立以来 117 年間にわたり、一人一人が自立し、協同して社会に貢献できる人材の育成を目指しています。その目指す人物像は、健全な価値観と倫理観を持った良き市民、良き家庭人として、幸せな人生を追求する努力の出来る人です。

【短期大学部のアドミッション・ポリシー：BUNRI-C】

短期大学部では、特に、社会で活躍するための「人間力」を身につけた人材を育成することを目標に、次の BUNRI-C に集約されるアドミッション・ポリシーを掲げています。

B: Basic Knowledge (基礎知識) U: Uniqueness (獨創性) N: Human Nature (人間性)
R: Regular Life (規則正しい生活) I: Independence (自立) C: Cooperation (協同)

ビジネス実務総論
組織で働くために
必要なスキルを
学びます



**ホテル・エアライン
英会話**
教員自身が作成した
マルチメディア教材
を使用します

【ビジネス実務教育と読解力】

本学英語教員 2 名は「フィンランド・メソッド」を採用入れた英語プレゼンテーション能力育成法・評価法の確立(科研費 20530870)においてフィンランド視察を行い、その成果はビジネス実務教育として短大の教育に組み込まれています。フィンランド・メソッドの中核を担う確かな読解力は「対話型コミュニケーション能力」と「集団的問題解決能力」の育成につなげてゆくことを想定しており、単なる問題解決法の技術にとどまるものではありません。

【社会人基礎力と読解力】

フィンランド・メソッドは①書かれた文章の徹底理解、②意見・評価・批判への発展、③社会参加のためにテキストを利用することなど、PISA 型読解力テストの要素に見事に対応していますが、これらはそれぞれ、①考え抜く力、②前に踏み出す力、③チームで働く力など、社会人基礎力の養成にも符号しています。これらを養成すると同時に、現状の自分に対し、社会人基礎力の観点から自己評価が果たして正しいのか、と振り返ることにも重点を置きます。

【言語コミュニケーション学科ならびに商科】

短期大学部の学科のうち、ビジネス実務教育に特化した学科は、言語コミュニケーション学科(エアポートブランド、スタッフコース、観光ビジネスコース)と商科(ビジネス実務コース、医療事務コース)になります。



航空産業入門
業界用語に慣れ、航空産業全体の
関係を学びます



英語スピーチコンテスト
4 年制大学の学生にまじり、
本年度も短大生が出場。
見事、入賞しました。



オーラルコミュニケーション
ネイティブ・スピーカーを説得
できる実践英語力を養います。

第 31 回 全国大会の開催について

研究会風景

- ◇ 開催日：2012 年 6 月 9 日(土)、10 日(日)
- ◇ 開催場所：広島女学院大学
- ◇ テーマ：「ビジネス実務教育と就業力育成」



第 29 回 中国・四国ブロック研究会開催について

次回研究会は、徳島県で開催いたします。当番校は徳島文理短期大学部です。
ぜひ、ご発表ご参加くださいますよう、お願い申し上げます。

- ◇ 開催日：2012 年 9 月 1 日(土)、2 日(日)
- ◇ 開催場所：徳島文理大学短期大学部

第 7 回 学生プレゼンテーション発表会

第 7 回 学生プレゼンテーション発表会へのご推薦をお願いいたします。

- ◇ 開催日：2012 年 9 月 1 日(土)・2 日(日)
- ◇ 開催場所：徳島文理大学短期大学部
- ◇ テーマ：自由（例として、「私の大学生活」「大学でのビジネス教育を受けて」等）
- ◇ 発表：パワーポイント使用 USB メモリー・CD-ROM 等持参 発表時間は一人あたり 5 分

2011 年度・2012 年度 ブロック研究会共同研究助成の募集について

2012 年度助成の対象となる共同研究を募集いたします。詳しくは募集要項(p7)をご参照ください。
なお、2011 年度助成の申請期限は昨年 10 月末日となっておりますが、応募がありませんでした。



研究会風景

事務局より

- ◇ 明けましておめでとうございます。今年も皆様のブロック研究会へのご参加はもとより、活発な研究発表や議論で、大いに日本ビジネス実務学会中国・四国ブロックを盛り上げてくださいますようお願い申し上げます。(宇根)
- ◇ 早いもので、昨年 3 月 11 日の東北地方を襲った未曾有の大震災からまもなく 1 年が経とうとしています。被災地の皆様にとって暖かい希望の春になりますようお祈りします。
- ◇ 本号より、日本ビジネス実務学会の Web サイトに掲載していただくよう、現在本部事務局と調整中です。
- ◇ 中国・四国ブロック会報の図書紹介募集について
ブロック会員の皆様が最近ご出版の、あるいはご出版予定の書籍等がありましたら、この紙面を使ってご紹介したいと思います。ご紹介いただける場合には、事務局宇根までご連絡ください。(osamune@gaines.hju.ac.jp)

**日本ビジネス実務学会
中国・四国ブロック会報発行事務局**

〒732-0063 広島市東区牛田東 4-13-1
広島女学院大学内

TEL 082-228-0386(代)

FAX 082-227-2974

編集責任者 篠原 収(広島女学院大学)